

公益財団法人
青山音楽財団新人助成公演

ベンジャミン・ブリテン生誕
110周年

オールドバラの潮風にのって

Riding the sea breeze in Aldeburgh

ソプラノ 中塚沙貴

ピアニスト 重森光太郎

7/16 2023

14:00開演 13:30開場

青山音楽記念館
バロックザール

[全席自由] 一般¥2,000 / 学生¥500

プレイ
ガイド

◇青山音楽記念館

075-393-0011

受付9:30-18:00(月・火・休館日)

◇チケットぴあ

<http://pia.jp> [Pコード:243-477]

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※学生券購入の方は、入場時に学生証のご提示をお願いいたします。

※お買い求めいただいたチケットのキャンセル、変更はいたしかねます。

[後援] 桐朋学園大学 | 関西桐朋会

[お問い合わせ] 落合美和子 TEL 090-6929-2200

Program

[B.Britten]

On this Island Op.11

この島で

Les illuminations Op.18

イリュミナシオン

ほか

No.1

バロックザール
Barocksaal
京都 青山音楽記念館

二度の世界大戦という欧州が歴史上最も揺れ動いた時代の中で、オペラから室内楽曲、歌曲、映画音楽に至るまで、多くの名曲を残し続けたブリテンの功績は計り知れず、彼の作品は、今もなお新たな聴衆を魅了しています。

私は、そうしたブリテンの音楽が持つ、時代を超越する力に感銘を受け、ブリテンの作品に関する研究を行っています。その中では、ブリテンが遺した数々の手紙や日記も読み進めており、彼の生活、交友関係、考えに触れることで、彼が創造した音楽に少しでも寄り添い、彼の作品がどのようにして生まれ、なぜ今もなおその輝きを失わないのかを理解し、その魅力を現代の人々に伝えていきたいと考えています。

今回の演奏会においては、まだ緒に就いたばかりではありますが、こうしたこれまでの研究、特に詩人オーデンがブリテンに与えた影響に関する研究の成果も踏まえて演奏を行うことにより、ブリテンの音楽の魅力、響きを、より深く、より直接的に皆様のもとへお届けすることができればと願っています。

中塚沙貴

ソプラノ

大阪府出身。大阪女学院高等学校英語科を経て、桐朋学園大学音楽学部声楽科を卒業。現在、同大学院修士課程2年歌曲専攻に在籍。

12歳より声楽をはじめる。第29回全国童謡歌唱コンクールにて全国第3位。第15回大阪国際音楽コンクール声楽部門Age-J第3位。第71回全日本学生音楽コンクール大阪大会声楽部門本選入賞。2019年に近江楽堂ランチタイムコンサートに出演。2022年4月、東京文化会館大ホールにて歌劇《ノアの洪水》にセム役で出演。これまでに声楽を有元光子、大野雪枝、落合美和子の各氏に、室内楽を村上寿昭、藤井一興の各氏に師事。

重森光太郎

ピアノ

2000年生まれ。6歳よりピアノを始める。2022年11月フランス、パリで開催されたロン=ティボー国際コンクールピアノ部門第4位を受賞。その他、2017年第1回Shigeru Kawai国際ピアノコンクール最年少ファイナリスト、奨励賞。2018年第19回ショパン 国際ピアノコンクールin Asia プロフェッショナル部門銀賞。2019年第9回安川加嘉子記念コンクール第1位。安川加嘉子音楽賞など、様々なコンクールにおいて上位入賞多数。

これまでに、多数のソロリサイタル、宮崎国際音楽祭、いしかわ、風と緑の楽都音楽祭、そしてメディア等に出演の他、東京フィルハーモニー交響楽団、オーケストラアンサンブル金沢、セントラル愛知交響楽団、パリ・ギャルド・レピュブリケーヌ管弦楽団と共に演じます。

現在、桐朋学園大学ソリストディプロマコースに特待生として在学中。三上桂子、岡本美智子の各氏に師事。

Benjamin Britten (1913-1976) ベンジャミン・ブリテン

イギリスの作曲家、指揮者、ピアニスト。20世紀イギリスの芸術音楽を支配した作曲家の1人である。同時代には前衛的な作品を生み出す作曲家もいたが、調性から逸脱することなく、イギリス音楽の伝統に目を向け、多様な表現方法と卓越した技法により、あらゆる作品を残した。

『On this Island』Op.11

ブリテンに多大な影響を与えたイギリスの詩人ウィスタン・ヒュー・オーデン(1907-1973)が自身の作品から選んだ5つの詩に、ブリテンが声楽とピアノのための曲をつけたもの。オーデンとブリテンは1930年代の半ばに映画音楽の仕事がきっかけで知り合い、本作品もその頃に作られている。

なお、この作品は、ブリテンの友人であるクリストファー・イシャーウッド(1904-1986)に捧げられた。

『Les illuminations』Op.18

ランボーがパリヘヴェルレースを訪ねた時から、二人の詩人のベルギーとロンドンへの逃避行、そして19歳のランボーがシャルルヴィルの自宅へ戻るまでの間の様々なタイミングで、ランボーによって書かれた詩に、ブリテンが高声と弦楽オーケストラのための曲をつけたもの。この詩に興奮したブリテンは、詩と出会って間もない1939年3月に、早速その中の二つの詩に曲をつけています。そのうちの一つである「Being Beauteous」は、当初ソプラノ歌手であるソフィー・ウイスのために作曲されたが、後にブリテンの生涯のパートナーであるテノール歌手のピーター・ピアーズに捧げられている。

演奏会情報ホームページ <https://www.miwakoochiae.com/>

